中上級ベトナム人日本語学習者の学習支援視覚教材の効果
―アンケート調査の報告―

ボーティーバオ アン（Nozomi Academy Vietnam）

The effectiveness of digital teaching materials on supporting Japanese advance learners in Vietnam
- Survey Report -

Vo Thi Bao Anh, Nozomi Academy Vietnam

要旨：今までの経験上、担当したことがある中級日本語クラスにおいて、ほとんどのベトナム人日本語学習者は類似文型及び類義語の使い分けに問題がかかっている。そして、中級教科書内容の難解についての学習者のコメントが多いという現実である。上記の背景より筆者は中級学習者への学習支援を目的に、デジタル教材を開発した。

キーワード：E ラーニング、デジタル教材、ICT 教育

1. はじめに

中級日本語クラスにおいて、ほとんどのベトナム人日本語学習者は類似の文法の使い分けに問題がかかっている。そして、中級教科書内容の難解についての学習者のコメントが多い。その上、語彙面に関しては母語干渉により誤用も多いという現実である。

担当したことがある中級日本語クラスにおいて、筆者は学習者を理解させるために、数学の図形作成及び言葉の代わる説明したい内容の表示可能な画像の使用などの各面の様々な方法に頼っている。このような方法の使用により学習者の定着度が高くなってくるという結果が見られる。

上記の背景より筆者は中級学習者の学習への支援を目的に、自分が開発したプリントをまとめ、それらを画像式中級日本語学習支援の教材として公開する予定である。公開段階の前、自分のビリーフ尺度の測定及び開発した教材の効果の把握を目指し、筆者はアンケート調査を実施することにした。本稿では報告書として筆者が行ったアンケート調査の結果を述べる。

2. 先行研究

アンケート調査の内容を作成するために、筆者は様々な先行文献を参考した。以下は筆者が明らかにしたい内容に一番近い二つの先行文献を紹介する。

第一、森本（2016）は非漢字圏の中級日本語学習者を対象に作文における語彙使用の語彙と問題点を明らかにした。調査対象となった作文を通じて、結果として類義語に対する誤用例の

中に「競争者（競合者）」「今から（これから）「未来（将来）」「考える（思う）「多額（高額）」「自分で（一人で）のように日本人母語話者であっても、その使い分けについての理由やルールを明確に説明することが難しいのがわかった。その一方で、「上達（向上）」「会う（出会う）」「命（寿命）」などの誤用の原因は母語干渉のせいもわかった。

第二、内丸（2012）はアンケート調査を通じて、中級日本語学習者のニーズを把握した。本研究のように、教科書の評価において中級での文型の扱いやその解説、内容を工夫する必要があるのがわかった。その上、自由記述の質問の結果を見ると、「文法は初級より難しくなるから、もっと詳しく説明してもらいたい。」「より多くの図が与えられると良い」という回答が多いのは明らかになった。

3. 画像式中級日本語学習支援の教材

現在、ベトナムには日本語学習への支援ウェブサイト、フェスブックは流行っている。画像式中級日本語学習支援の教材開発の計画の作成時点において、筆者は評判がいいウェブサイトを参考した。これらのウェブサイトの内容を見ると、初級から上級までの文型説明のみ記載されている。類似の文法も類似の語彙の使い分けの説明もほとんどないという共通点がわかった。そこで、このような不足の解決策として、筆者は内容的に類似の文法用法及び語彙用法の理解促進の支援の教材を作成することにした。

開発する教材の内容の確定後、次に筆者は開発したい教材の種類を考えた。自分の経験及び教師の立場からすると、既存の中級レベル教科書はカリキュラムの作成も教案の作成にも良い。それに対しては学習者にとって中級教科書の内容の理解が難しいのに気づいた。そこで、学習者の理解への支援のため、視覚化教材を開発することにした。具体的に新完全マスターの文法教科書の内容を参考し、次のような目立つ特徴がある教材を開発した。

・第一目の特徴は分かりやすい。内容面に関しては非常にわかりやすい。理解できるまで時間があまりかからないという条件が優先されている。そのうえ、イラストの方は説明したい内容を正確に表示できる。可能な場合においては、イラストのみ見ると、伝えたい内容が理解できるという条件も重視されている。

・第二目の特徴は便利である。場所、時間を問わず、勉強したいときに、スマートフォンのみすぐ勉強できるという便利さを考えて全ての教材内容は便利な学習ツールとする画像ファイルで 作成された。

教材作成の完了後、効果測定のため、筆者は自分のブログに開発した教材データを投稿した。次に、自分の学生の協力を依頼し、下記に述べられるアンケート調査を実施した。

4.　画像式中級日本語学習支援の教材の効果のアンケート調査

4.1　アンケート調査の目的

自分が開発した視覚教材の効果についての筆者のビリーフを把握したいため、アンケート調査を実施した。

4.2　調査対象

アンケート調査を実施するために、中級ベトナム人日本語学習者の 77 名に協力を依頼した。本調査の対象となった学習者は全て筆者が開発した教材を 1 ヶ月程度使った。

4.3　考察・結果

アンケート用紙には 23 問があり、回答者には質問についてあてはまる、 2　ややあてはまる、3　どちらでもない、4　ややあてはまらない、5　あてはまらない、の 5 段階で回答してもらうこととした。

アンケート中の各質問はそれぞれの内容にしたがって次のカテゴリーにまとめた。

・グループ 1：スマートフォン使用習慣
・グループ 2：中級日本語学習の問題点
・グループ 3：筆者が開発した教材の応用性及び効果
・グループ 4：筆者が開発した教材の評価

4.4　結果

各質問への回答の平均値を出し、それをもとに t 検定を行った結果によって、次のようなことが明らかになった。

(1) 中級学習者は類似の文法の使い分けという問題がかかっている。語彙面にも母語干渉の影響で誤用が多い。
(2) ベトナム人の若者は暇な時間に検索情報、学習などの知識補充用スマートフォンの利用習慣がある。
(3) 筆者が開発した教材は学習時間、学習場所に便利な教材で、（2）のようなベトナム人若者のスマートフォン使用習慣に合うと評価されている。
(4) 分かりやすくて、覚えやすいと評価されている。そして、勉強の効果が実感できるという声が多い。

5. 今後の展望

本調査では、専攻を問わず、中級ベトナム人日本語学習者を対象にアンケート調査を行い、中級学習者の問題点、ニーズに対するビリーフ及び自分が開発した教材の効果を把握するのが目的であった。

今後、調査対象として文系の中上級学習者と理系の中上級学習者に分けて、同様のアンケート調査の実施を目指す。そして、それぞれの調査対象には在学の学習者と就職者に調査対象の属性を分けて、専門及び職業は筆者が開発した教材の理解に影響を与えるかどうか、勉強の効果が違うかどうか把握したいと思う。

参考文献

森本　一樹　. 2016. 「中級日本語学習者の作文における語彙使用の誤用と問題点」『日本語学習者の母語・地域性をふまえた日本語教育研究』2 号 p.99-106

内丸 裕佳子 . 2012. 「中級日本語学習者が望む学習とは何か一高等教育機関におけるアンケート調査―」『大学教育研究紀要』8 号 p.61-72

松田 真希子 . 2016. 「ベトナム語母語話者のための日本語教育ーベトナム人の日本語学習における困難点改善のための提案」春風社の出版

田川 麻央 . 2012. 「中級日本語学習者の読解における要点と構造の気づきー要点探索活動と構造探索活動の統合と順序の影響を考慮して一」『日本語教育』151 巻 p.34-47

高橋 亜紀子 . 1998. 「中級日本語学習者の読解ストラテシー ： 韓国人学習者の場合」『言語科学論集』2 巻 p.85-96

山田　裕美子　. 2016. 「設問のタイプの違いが読解中のストラテジー使用に与える影響―中級日本語学習者を対象に―」『一橋大学国際教育センター紀要』7 号 p.57-69

高屋敷 真人、 宮内 俊慈 . 2015. 「モジュール型教材による中級後期日本語教科書開発プロジェクト実践報告　(2015）」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』25 号 p.55-68

因 京子、 市丸 恭子、 栗山 昌子 . 1993.「中級学習者の話し方の問題点とその指導法に関する考察」『九州大学留学生センター紀要』5 巻 p.107-132

魏 娜 . 2013. 「日本語の漢字語彙テストから見た中国人中級学習者の漢字語彙の処理の問題 一視覚呈示と聴覚呈示の比較を中心に 一」『JSL 漢字学習研究会誌』5 巻 p. 41-48

田丸淑子 . 1998. 「語彙に焦点をあてた授業 非漢字系中級中・後期日本語学習者の場合」『Working Papers on Language Acquisition and Education』9 巻 p.78-87